

「安心・活力・発展プラン2005」中間見直し策定委員会発言要旨
ー活力部会ー

開催日：平成23年6月13日（月） 14：00～16：00

場 所：トキハ会館5F ローズ

出席委員： 矢野委員 綾垣委員 石井委員 伊藤委員
甲斐委員 壁村委員 北崎委員 桑野委員
佐藤委員 荷宮委員 橋本委員 藤澤委員
横山委員 米澤委員 渡邊委員 和田委員

- 「株式公開企業数」を指標としているが、平成16年から数値に変動がなく、上場のメリットなどを考えてみると見直した方が良い。
- 1次産業の維持には、外国人研修生制度の活用が有効である。
- 限界集落については、発想を転換すると「癒しの場所」となり得るものと考えており、そうした観点から限界集落の活性化も図れる可能性があると思われる。
- ブランドづくりには、様々な切り口があり、産地と消費地を直結させたり、産地に観光客を呼んだり、その地域に応じたブランドづくりを考えるべきである。
- 戦略品目の成果指標である産出額の実績値は、ほぼ横ばいであるが、これが成果の全てとは言いきれず、もっと総合的な評価を考えることも必要である。
- 成果指標の農業企業数、目標を達成しているが、農業の厳しい状況は変わっていないことから、もっと高い目標値を設定するか、あるいは、家族経営の農業者の増加に変更するなど、見直した方が良い。
- 滞在型ツーリズムの推進をもっと前面に出した方が良い。
- 1次産業では、一定の所得を確保できる仕組みづくりが重要であり、再生産価格、再生産収量も指標として検討してはどうか。
- 都会と比べ住宅問題や物価問題など様々な面から、大分の方が暮らしやすく感じられ、こうした大分の強みをもっと情報発信するとともに、「住みやすさ」「暮らしやすさ」等を数値で見ることができないか。
- 指標については、九州や全国でどのくらいの位置にあるかが分かるような設定の仕方を工夫してみるのがよい。